

プロローグ 四日違いの光と影

一八八九年四月一六日、ロンドンの貧民街で、チャールズ・スペンサー・チャップリンが生まれた。同じ週の二〇日、オーストリアのブラウナウ・アム・インで、アドルフ・ヒトラーが生まれた。二〇世紀でもっとも愛された男ともっとも憎まれた男が、わずか四日違いで誕生した。

五一年たって――

その後、同じチョビ髭ひげを生やした両者は、偶然と必然の絡み合うなか歴史を創る二人の天才として世界に君臨していた。

一九四〇年六月二三日早朝、アドルフ・ヒトラーは征服者としてパリに到着した。その前日に、ナチス・ドイツは電撃戦の結果フランスを降伏させていた。ヒトラーは少人数の側近とともに長年の宿願だったパリ観光を楽しんだ。ナチスのフランス征服のニュースは世界を駆けめぐり、人々を暗澹あんたんたる気持ちにさせた。誰もヒトラーの勢いを止めることはできないように思えた。

そのニュースが流れた翌日。

チャールリー・チャップリンは、ハリウッドの撮影所で、『独裁者』のラストシーンの撮影準備に入

った。

それまで何ヶ月ものあいだ、チャップリンは『独裁者』のラストについて考えあぐねていた。当初は、ドイツ兵士が武器を捨てて、ユダヤ人と一緒にみんなで踊る平和の饗宴とも言うべきラストシーンを構想しており、何度か撮影を試みてもいた。

しかし、彼はみずからのアイディアに納得しなかった。そして、ヒトラーの脅威が世界を席卷しつつあった一九四〇年の四月から六月まで考え抜いた末、彼はラストシーンにおいて、世界に向けて崇高なメッセージを発することに決めた——六分間にも及ぶ、あの演説のシーンだ。

まだ中立国だったアメリカで、ヒトラーに真っ向から対決を挑むこの演説は危険だった。各方面から脅迫の声が届き、身内からも「あの演説で興行収入が一〇〇万ドルは減る」と反対の声があがった。チャップリンは、「五〇〇万ドル減ったところでかまうものか」と言い放ち、撮影に入る前、演説に反対していたスタッフをセットから追い出した。

チャップリンは、たった一人、闘う決意で、カメラの前に立った。

今でこそ、歴史的な名作と称賛されている『独裁者』。だが、製作当時のアメリカでは、ヒトラーを「ドイツを苦境から救った力強い指導者」と英雄視する傾向もあり、反ユダヤ主義も根強く、さまざまな批判や圧力の中で撮影が進められた。しかし、その製作過程の詳細は、これまで明らかではなかった。

本書は、チャップリン家の資料庫に保管されていたメイキング・フィルムや、一万ページにも及ぶ草稿や製作メモ、制作日誌や手紙など、近年になって発見された新資料と、ナチス関連資料をもとに、

かの〈問題作〉をめぐっての、メディアという戦場での闘いの実相を追う。

困難な状況に抗ってチャップリンが『独裁者』を作り上げた事実は、グローバリズムが世界を席卷し、テロや紛争が頻発する二一世紀に生きる私たちに、多くのことを教えてくれるはずだ。

はたして、迫り来る全体主義の恐怖の中、チャップリンはいかにして悪夢の独裁者と闘ったのか——〈笑い〉という武器しか持たない、あの小さな放浪者が。

『独裁者』ストーリー

1918年、ユダヤ人の床屋(チャーリー・チャップリン)は第一次世界大戦に一兵卒として出征したが、敗戦間近に負傷し、記憶をなくして病院に収容された。約20年後、病院を抜け出した床屋はユダヤ人街へ戻る。隣人の美しい娘ハンナ(ポーレット・ゴダード)らが温かく迎えてくれた。

その間、トメイニア国に政変が起こり、ヒンケル(チャップリンの二役)による独裁政権が成立していた。不況の中、国民の不満をそらすため、ヒンケルは厳しいユダヤ人迫害を行い、突撃隊は日常的に床屋やハンナらの住むゲットーを襲っていた。

ヒンケルの重臣の一人、シュルツ(レジナルド・ガーディナー)は気まぐれなヒンケルをいさめようとするが、逆に解任されてしまう。かつて戦争中にシュルツを助けたことがある床屋は彼をかかまうが、二人とも突撃隊に捕まってしまう。ハンナは、同居人らとともにオスタリッチ国へと亡命した。

その頃、トメイニアの隣国バクテリアでも、ナパローニ(ジャック・オーキー)という独裁者が出現。互いにオスタリッチ侵略を企てるが、結局ヒンケルはナパローニを出し抜いてオスタリッチを支配下に取るべく進軍する。

収容所に入れられていた床屋とシュルツは軍服を盗んで脱出し、オスタリッチをめざして国境を越えようとした。しかし、国境警備隊に見つかり、もはや命はないと覚悟したとき、兵士たちはヒンケルに瓜二つの床屋を独裁者と勘違いして、一斉に最敬礼をする。床屋とシュルツは数万の兵士たちの歓呼の中、オスタリッチへと入った。やがて、床屋は大群衆を前にして、演説をしなければならないことになった……。

凡 例

- ・書名は『』、日本語訳がないものは「」で、（ ）の中に原題を記した。翻訳書は、一部をのぞいて原著のタイトルなどの情報は省略した。
- ・映画タイトルは、邦題が定まっているものは『』で原題は省略。日本未公開のものは「」で、（ ）の中に原題を記した。
- ・新聞・雑誌名は、本文中では「」の中にカタカナ表記。注の中では原語で記した。
- ・引用の原文が旧かな・旧漢字のものは、新かな・新漢字にあらためた。
- ・引用文中には今日の人権意識に照らして不適切な語も含まれるが、原文の表現・表記を尊重し、そのままとした。

目次

プロローグ 四日違いの光と影

『独裁者』ストーリー

凡例

第一章 チャップリンの髭、ヒトラーの髭 ————— 1

二人の天才の誕生(1) チャップリンと第一次世界大戦(8) 自由公債キ
ヤンペーン(10) 『担へ銃』——史上初の厭戦映画(13) ヒトラーの髭は
チャップリンのまねか(14)

第二章 ヒトラーの台頭とチャップリン攻撃 ————— 17

世界メディアの誕生、そしてベルリン来訪(17) 天才演説家の誕生と反ユ
ダヤ主義の伸張(20) 「チャップリンユダヤ」攻撃の開始(24) 二人の運
命を変えたトーカー(28) ベルリン再訪——ナチスとチャップリンの初の
直接対決(31) 「愛国心は狂気だ」(37) 第三帝国の映画統制——チャップ

リンの全面禁止(40) ナチスの嫌がらせ訴訟(44) 世界に広がった「チョ
ビ髭比べ」(46)

第三章

「チャップリンのナポレオン」——幻の反(独裁者)プロジェクト——
ナポレオン映画化プロジェクトの始まり(51) ナポレオンと身代わりの
「一人二役」(56) 脚本完成——反戦の思いをこめて(59) 『モダン・タイ
ムス』公開と「ナポレオン」への迷い(67) 断念(70)

第四章

「プロダクション#6」——『独裁者』製作準備——
『独裁者』製作のきっかけ(75) アイディア熟成とストーリー構成作
業(80) 強制収容所の実態を予言(84) ヒンケルとナパローニ——二人の
独裁者の原型(86) 最初のストーリー構成(88) 『独裁者』製作の噂とナ
チスの妨害(97) スタジオ準備期へ(102) ヒンケルの妻(105) 兄シドニー
と弟ウィーラー(107) 脚本完成(111) ヒトラーの反応とドイツ、イタリア、
そしてイギリスからの圧力(120) 本国アメリカでの逆風(123) 第二次世界
大戦開戦の報せ(128)

第五章

開戦、そして撮影開始——
白熱する撮影(131) ヒンケルに変貌したチャップリン(137) 地球儀のダ
ンス(142) 「小型飛行船」とジャック・オーキーの参加(145) 本撮影

終了(150) 長期化する戦争、長期化する製作(152)

第六章 演説

カットされた「踊る兵士たち」(157) ラストシーンの最初の構成(159)

「演説のアイディア」(165) 撮影台本における演説シーン(169) ヒトラーの

進撃とチャップリンの孤独な闘い(175) ヒトラーのパリ入城の翌日に演説

の撮影(179) 逆風から待望へと変わった世論(182)

第七章 完成——作品分析、公開とその衝撃

チャールリーの道のり(189) 『独裁者』細見 サイレント／トーキー映

画(191) 「ユダヤ人映画」の枠を超えて(193) 音楽映画、ダンス映画とし

ての『独裁者』(196) 「心理」その1 ゲットーの謀略(198) 「心理」その

2 ヒンケルとナパローニ(200) ユナイトの宣伝作戦——子供たちは独裁

者ごっこをしましょう！(202) 公開の日(206) 賛否入り混じったアメリカ

の批評(209) 国を挙げて大絶賛したイギリス(214) ドイツの反『独裁者』

キャンペーン(216) チャップリンとヒトラーの「世界大戦」(220) 戦中の

日本人と『独裁者』(223) ヒトラーは見たのか(225)

第八章 『独裁者』というメディア

終わらなかつた闘い(233) 冷戦期のチャップリン——「平和の煽動者」の

苦難(236) アメリカでのチャップリン再評価(239) 日本公開と『独裁者』の現在(241) 笑いという武器——戦時中の他の反ナチス映画との比較(243) ヒンケルのデタラメ演説を「翻訳」(246) フィルムには毒が入っている(250) 永遠に「現在」を拓く、ラストの演説(253)

エピローグ 「それが私たちの希望だ——」 261

『独裁者』結びの演説 263

謝辞 267

主要参考資料・文献 269

注 271

『独裁者』スタッフ・配役など

ヒンケルのデタラメ・ドイツ語解説

図 著作権・所蔵元・出典